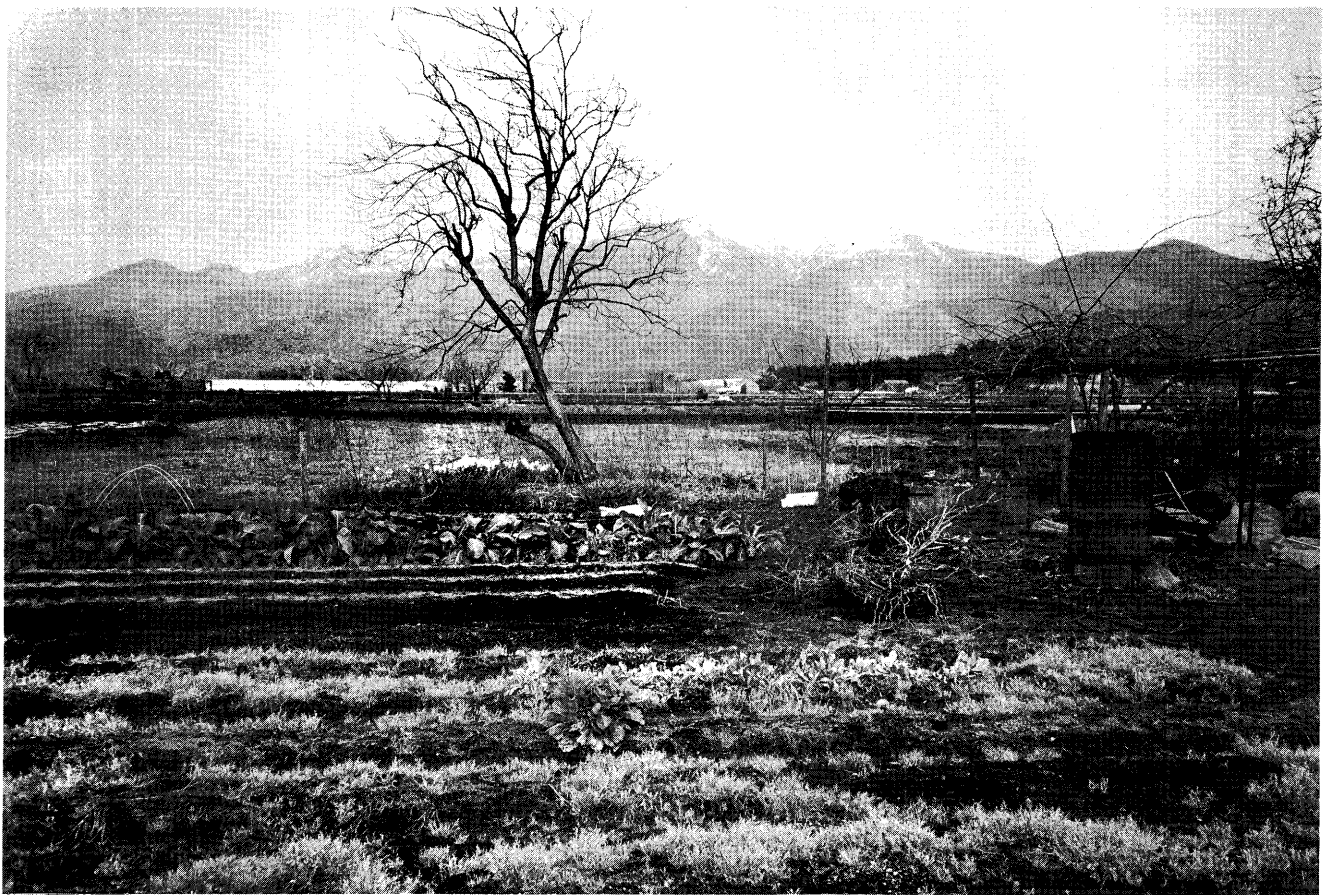
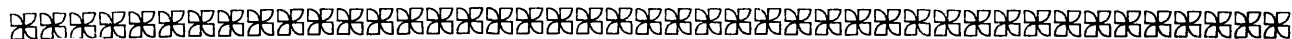


臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報

平成8年度（第39回）支部大会号





第39回 東京支部大会プログラム

平成 8年 6月 1日(土) 午後 2時
於・浅草R.O.X・ニューオータニ



準 備

場内指令(段取・渉外)	伊藤 勇五、篠川 恒夫、大橋 貞夫
案 内 (総合)	沢出 赳允、小林 早月、深見 洋子
受 付 (総合・来賓)	堀 哲二、斎藤 和男、岡本 和子
(旧中・旧女)	芳賀 健一、鈴木 節子、佐藤 玲子
(高校 男子)	近藤 燦子
(高校 女子)	青木 猛、松田 茂夫、石黒 四郎
(景品受付及び会報等配布)	笠原 静夫
会場設営	山西愈佐子、山下由紀子、中島 和子
司 会	渡辺 八郎、関 孝世、八木又一郎
鈴木多喜男、広田 達衛、田代 信雄	
佐久間英輔、渡辺 厚子、徳永 道子	

第一部 開会宣言	武藤 三郎
平成7年度経過及び会計報告	鶴巻 浩
会計監査報告	塚田 勝
支部長挨拶	佐伯 益一
来賓紹介	伊藤 勇五
同窓会長挨拶	茂野 敏郎
校長挨拶	吉川 益男
文部省唱歌「ふるさと」合唱	全 員

第二部 懇親会	
乾杯	出席高齢者の中から
アトラクション.....北区・新潟県人会「おけさ会」	真水 道子、小島 典子
じゃんけんゲーム「佐伯賞」	沢出 赳允、石黒 四郎、大橋 貞夫
抽選会	篠川 恒夫、木村 孝子、幹事
校歌・応援歌ほか	
手締め	支部長
万歳三唱	校 長
閉会挨拶	斎藤 和男

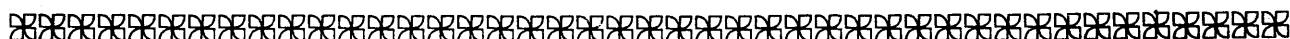
☆.....☆

(表紙について)

—春の菅名岳・大蔵岳・不動堂山—(平成 7.4.16 写す)

冷たい風が吹き冬のように寒い曇空で山々の稜線、ぼやけ、中央の木の下に咲いている水仙の花も分からない。桜の花は二分咲きで、菅名岳、大蔵岳は七合目あたりまで残雪あり空と見分けがつかない。樹木に葉はなし畑にも作物がなく寒々しい。

菅名岳(909 m)山頂には三角点があり領地所有は五泉市と三川村。大蔵岳(864 m)山頂は五泉市の領地。不動堂山(557 m)山頂は五泉市。—撮影場所は旧村松連隊兵舎(愛后中学旧校舎)跡地—



第39回支部大会によせて

東京支部長 佐伯 益一



今まで この欄を借りて ずい分と同窓会の件に関し、考え方を述べさせていただいてきたが もう言うことも尽きたようであり、ご理解も頂いていると考える。

ふるさと会とか同窓会とか色々の会則を読んでもと目的は 郷土、母校の発展に尽くし 親睦を図ると第一に書かれており大体どこも同じである。しかし それはあまりにも抽象的である。つまるところ会そのものの存在は、その会を媒体として体と体、心と心をぶつけあった人間の交流を図ることに尽きるのではないかと考える。その意味で本大会の果たす役割は大きい。

松高同窓会東京支部の大会は今回でもって第39回を数える。創設期は不明であっても 多くの先輩の方々が営々努力し 培って来た過去の実績を踏まえた第39回であることをご認識願いたい。

また 支部の進展に伴い会報「臥龍が丘は緑なり」も昭和62年以来 年2回発行している 一時は年3回、出したこともあったが経費と手間の関係で今では2回になったことは よく御存じの通り。今回で21号となるが よく続けてきたものと我ながら感激している。

会報は同窓会の歴史を表現するものであり また情報を提供するという大使命もある筈、特に表紙の写真は会報の顔である。話題の中心となるよう気も使い、頭を悩ます。今号では創刊号から20号までの表紙写真を編集に取り上げた。継続発行21号記念という意味もある。会員各位の努力の集大成である。しかし最近は題材が極めて少なくなった。各位のご協力をお願いしたい。

余談になるが この「臥龍が丘は緑なり」の題名は私が松中学生代の思い出を纏めて随筆集でも出版しようかなと思って前から暖めていたものでそれになかなか実現できず3号ぐらいまで仮の名で使って貰っていたが“なかなか良い名”ということで そのまま採用されたものである。

今年は母校創立85年の年 何か小さな催事でも計画されているかなと思ったが今の処 何も聞かない。90周年記念には 是非出席したいと前に書いたことがあるが 果たしてそれまで体がもつかどうか。

会員諸兄、諸姉のご健勝を祈る。

田舎の楽しみ

村松高等学校 校長 吉川 益男

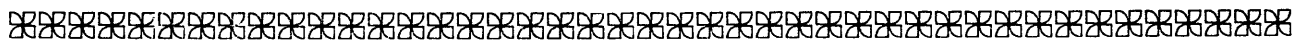


新聞紙上で時折中高年者の登山中の事故が報じられる。今年の3月には、村松町の白山で遭難騒ぎがあり、4月になった今でも捜索が続いている。この方は20歳代の青年であるという。私も山に登るのが好きであるが、いつも机とにらめっこの生活なので体力がなくなり、もっぱら800米前後の低い山ばかりである。今年になって、1月に角田山（481・7米）へ二度、2月と3月に一度ずつ登った。頂上は30程程の雪があったが寒い分だけ夏山より疲れな。2月と3月には、国上山（313・2米）に一度ずつ登った。国上山では数株の雪割草と黄連の群生を楽しんだが、カタクリの花はまだ早い。雪がなくなると少しずつ高い山に行く、年間20回は登る。下越のハイキングコースは全部行ったので、今度は中越に挑戦中である。この歳になると、若い女性の同行は望めない、仕方なく愚妻を同行する。この方が気兼ねが無くていいか？

春の山行の楽しみは山菜摘みにある。ノー

トには、山菜摘みに行った日付と場所が大切に記入してある。4月の中旬から5月一杯はこの山菜摘みに明け暮れる。私の好きな山菜は、露のとう、木の芽（関東では木の芽というとサンショウのことであるが、越後ではアケビの新芽のつるを言う。）コシアブラ（ウコギ科の樹木で、高さ15米にもなる喬木であるが、この若木で3米前後ものの新芽を摘む。木をたわめる必要があるので、二人ずれが便利である。愚妻の価値が大きいのである。小生は、タラノ芽よりこのコシアブラが好きである。）そして、マタタビ（マタタビ科のつる植物で、例の猫が好むものである。旅人がこの実を食べて元気を回復してまた旅をしたとか言うもので、この葉とつるを食べる。）とワラビである。ここで、上記の山菜のおいしい食べ方を紹介します。

露のとうは、三川村岩津の川口に摘みにいく。今年は3月31日に行き、スーパーの袋に二つ一杯に取ってきた。湯がいて冷凍し一年間賞味する。山菜は総じて銅鍋でゆでるの



が鉄則である。落は熱湯に瞬時に入れて、湯の中に潜すのがコツで、こうすると色が鮮やかになる。小生の好みは、これを微塵に刻んで味噌とほんの少量の調味料を加えたものである。これを酒の肴として、またご飯のおかずとして、時にはこれを熱湯に溶いて味噌汁として飲む。落の天婦羅・酢の物は誰もが知っているが、先程のものを少し味噌を多めにして、皿に張りつけて炭火で焼いて、焦げ目を付け、箸の先で剥がしながら食べるのも良い。最近は適量の炭が手に入りにくくて困っている。マタタビは、新芽のつるまたは葉を食べる。意外と知られていない。つるは手でひっぱって摘み取れる所から折る。葉は、5枚付けて摘んでくること。これをきれいに水洗いし、微塵に刻んで味噌を加える。好みによって少量の調味料と砂糖を入れる。独特の香と苦みとエゴさがあるが美味しい。沢山食べると人によっては気持ちが悪くなる。子供はまず無理である。しかし、葉の天婦羅は子供もOKである。大事なことは摘んできた葉を天婦羅にする前に枝の部分を二糎ほど切り落とすことである。そうしないと切り口が堅くなっていて食味を害する。多少ぬめりがありつるつるして、山菜の王様ユキザサの天婦羅より美味しい。コシアブラは、薄ごろもでからりとあげた天婦羅が良い。銅鍋で茹でてマヨネーズ等で食べるのも良いが、おすすめは天

婦羅である。木の芽は摘み方にコツがある。一尺くらいの所から手でひっぱる様にして、ぶつんと切れるところから摘み取る。切り口を揃えて、一握りほどづつ輪ゴムでとめておく。銅鍋でゆでる前に輪ゴムの部分を3糎ほど切り落とし、あとは食ごろに切って熱湯に入れる。濃い緑色になったら素早く鍋ごと箆にあけ、ただちに冷水に浸す。二三次水洗いしてそのまま保存すれば2日くらいは味は落ちない。生卵を落としただし汁で食べる人が多いが、私は生醤油と生卵で食べるのが好きである。好みによっては天婦羅も良い。

塩沢町清水（巻機山の麓）に民宿を営んでいる知人がいるが、上記の食べ方は、このかあちゃんから教わったものが多い。私の山小屋の同人であるが、山溪の雑誌で有名になってしまい、いつも混んでいてゆっくりできなくなってしまった。しかし、豪快に山菜を食べさせてくれる。

佐伯益一支部長さんの原稿依頼に応えて、場違いな文を寄せてしまいましたが、長く東京で生活して居られる同窓諸子の望郷の念をかきたてて、夏には故郷へ帰って親や友と語ろうという気持ちになるようにと念じて、駄文を寄せました。

同窓の皆様方のますますのご発展ご健勝をお祈り申し上げます。

平成7年度収支決算書

自 平成7年4月1日～至 平成8年3月31日 村松高校同窓会東京支部

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
年会費	738,000	大会経費(No20発表済)1,	243,449
男子168名	504,000	大会準備費	70,721
女子78名	234,000	会議費	141,268
寄付金	270,000	送料、通信費	163,426
男子54名	216,000	印刷費	408,323
女子21名	54,000	慶弔費(弔1件)	54,620
大会会費(No20発表済)	1,092,000	払込み手数料	12,571
男子78名	780,000	本部総会参加費	50,000
女子39名	312,000	雑費	32,460
大会祝儀(No20発表済)	85,000		
中村氏香典返し(商品券)	30,000	計	2,176,838円
預金利息	3,149	次年度繰越金	472,450
雑収入	5,000	計	472,450円
計	2,223,149円		
前年度繰越金	426,139		
計	426,139円		
合 計	2,649,288円	合 計	2,649,288円
※ 次期繰越金内訳		現金	449,630
上記のとおり報告いたします。		本郷郵便局	22,820
		計	472,450
		平成8年4月5日	
		支部長	佐伯 益一 ㊟
		事務局	鶴巻 浩 ㊟
		経 理	岡本 和子 ㊟
		平成8年4月13日	
		監 事	芳賀 健一 ㊟
		〃	塚田 勝 ㊟
上記の収支決算書は監査の結果 適正であることを認めます。			

ありがとうございました

◎ 平成7年度会費納入の皆さん（其の二）

増田 訓英（前回の発表で脱落していました、お詫びして追加します）中村 雅臣、佐藤 起、渡辺 八郎
田川 百合子、（以上5名 敬称略）

男子168、女子78、計 246名

合計 738,000円

尚 渡辺 方夫氏から3千円の送金がありましたが、既に会費、寄付金の納入がありますので8年度に於て処理させていただきます。

◎ 平成7年度会費納入の皆さん（其の二）

10,000円 加藤 勝英

5,000円 石川 熙

2,000円 中村 雅臣、佐藤 起、渡辺 八郎

（以上5名 敬称略 計 21,000円）

男子54、女子21、

延べ計 75名

合計 270,000円

☆ 平成7年度 東京支部の動き

平成7年

4月 1日 赤山会例会 市ヶ谷私学会館 28名

8日 会報No.19 編集会議 ツルマキ4名

10日 印刷所 原稿送致

15日 幹事会 大会通知発送陽寿院 17名

5月 6日 幹事会 ROXと大会打合せ 7名

12日 印刷所 初校受領

16日 “ 初校送致

22日 “ 二次校正送致

25日 朝日新聞マリオンに大会予告掲載さる

6月 1日 会報No.19 印刷完了

3日 第38回東京支部大会ROX130名

8日 大会経費精算打合せ 岡本宅

19日 “ ツルマキ

27日 会報No.19 送付完了 240通

7月 1日 幹事会 大会反省会 ROX 16名

8月 14日 中村倉吉事務局長死去

17日 “ 告別式 陽寿院 22名

支部より献花 支部長平辞

17日 同窓会本部総会「明月」支部より3名

9月 9日 幹事会 事務局移転及び後任人事を決定
ROX 13名

23日 中村氏納骨式 陽寿院 エース高輪8名

10月 10日 会報No.20 編集会議 ツルマキ 5名

28日 “ “ 5名

11月 15日 印刷所 原稿送致

23日 赤山会例会 市ヶ谷私学会館

29日 会報No.20 初校完了

12月 16日 “ 送付完了 ツルマキ 7名

“ 幹事会 終了後望年会 ROX 24名

平成8年

2月 10日 常任幹事会 会報No.21 編集会議

ツルマキ 10名 終了後 新年会

3月 2日 会報No.21 編集会議ツルマキ 4名
終了後 ROX会場下見及び打ち合わせ

3月 5日 母校第48回 卒業式

17日 赤山会例会 市ヶ谷私学会館 29名

30日 会報No.21 編集会議 ツルマキ 5名

ちよつと良い話（其の一）

深見さんが 腰や足の痛みを和らげるのに効くからと幅6センチくらいの銅の腕輪（この場合 足輪か）を作ってくれました。ある日 地下鉄に乗っていた時 銀座から乗り込んだ3人の外国のご婦人が向い側の席に座りました、多分アメリカの人だと思いましたが かなりの年輩です、電車は空いていました。ふと見るとその中の1人が手首に私と同じような銅製のプレスレットをつけていました、立派な彫刻が施されており 私はおもわずニコッと笑いました そして目が合いました。そこで私はそのご婦人の手首を指さし私のズボンのすそをまくって見せました。意味が分かったのか親指と人差し指で輪を作り私の方へ突き出しながらオーケー、オーケーと周りの人がびっくりするような大きな声で笑いました。私が日本橋でおる時また大きく バアーイ と叫びました 私は手を振って電車を見送りました。

ただそれだけの ほんの短い時間でしたが、その日は一日中何となく心が温かでした。いや翌日も。

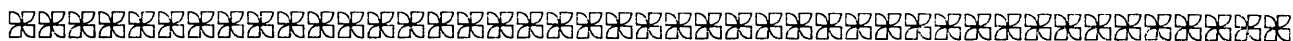
早速このことを 深見さんに報告したことは言うまでもありません。（伯）

ちよつと良い話（其の二）

“先輩からは知恵を、後輩からは感覚を汲むのがよい” 一西諺（せいげん）一

“人生の眞の喜びは目下の者と共に住むことである” 一サッカレー、（19世紀、英国の小説家）

この二つの言葉は、愛読する司馬遼太郎氏が著書（名言隨筆、サラリーマン）の中で書いている名言、格言で、気に入っている。週刊文春に掲載されたものを書き留めておいた。味わいのある言葉なので、是非、紹介しておきたいと思った。（伯）



お便りの中から

◎ 東京支部会報をご恵贈くだされ 心より感謝。
若かったころを語り合う機会が少なく、それに老化も加わり 近ごろ中学生時代の思い出が遠くに去って行ったように思えた。こんな時會報によって過ぎし懐かしい時代の思い出がよみがえってきた。一語一句読むごとに活字の重さ（再度読み返し出来る）と編集の労を感じ、頭が下がる思いだ。

新潟市 南雲 剛 （中27）

◎ 會報ご恵贈ありがとうございます。
「新年独言」及び「生欲の話」拝読、識見の程、感銘とともに ご活躍とご心労のほど拝察しています。
田崎正一氏、佐藤義雄氏のお便りもなつかしく、また亀嶋さんの中村氏への追悼分も拝見しました。
又ゆっくりと再読させてもらうつもりです。

新発田市 渡辺 郁雄

◎ 仕事で忙しく 心が柔らかさを失っている時に同窓會報が届き お陰さまで いささか豊かな気分になっています。新年独言だけ読み 大空に散った も夜帰ってから、それに今回は特に佐伯スピリットの濃さを感じました。ありがとうございます。

世田谷区 祖父江 静子

◎ 支部會報を毎号ご恵贈賜り感謝しております。
八回にわたって連載された「大空に散った同窓たち」の皆さんは大部分を知っていますから 故人各位の面影を偲びながら読ませていただきましたし、斉藤朝之さんのご熱意に敬意を表しております。

江花さんと豊島さんのご遺族については存じませんが幸い 笠原さん 高松さんのご遺族にはご厚誼を戴いておりますので関係部分をコピーして差し上げたいと思いますと同時に私共の県内の同期にも配布したいので コピーすることをお許しいただきたくお願い申し上げます。
斉藤さんにはお許しを得ました。

村松町 松尾 吉信（中25）

◎ 貴重な東京支部會報のページに「大空に散った同窓たち」を連載で紹介していただき 誠にありがとうございました。あらためて心から御礼申し上げます。

さて 同封の原稿「一里のグランドピアノ」は思いつくまま書いてみたものですが 果たしてお役に立つかどうか、思案しつつお送りいたしました。松中のグランドピアノは いつごろ何の目的で購入したかよく分かりません。「創立80周年記念誌」にも書いてありません。

藤岡市 斉藤 朝之（中28）

◎ 斉藤さんの原稿を拝見して感動を覚えると共に「負けてはいられない」と思いました。何故なら、私も小さい頃からピアノを弾くことが夢の一つで やっと45才過ぎから始めることが出来たのですが、ショパンを弾くなどということはすぐに諦めてしまい ピアノを弾く負担の少ない「弾き語り」に逃げてしまったからです。同封されていた譜面を見て 細かく書き込んでおられる事など 一つの曲に向う御姿勢に心から敬服すると同時に ぜひ一度演奏をお聞かせいただきたいと思いました。余談ですが私も最近古いアップライトをグランドに換えました。

斉藤さんに刺激されショパンを一曲、ものにしようかなと思っている処です 是非一度お目にかかってご指導いただきたいと思っています。

支部幹事 深見 洋子（高7）

◎ 支部會報の送付 誠に嬉しく感謝しています。
會報を見て それぞれの先輩後輩の動向が文面からよく知り得て、その心情をくみ取ることができ 私の励みにもなりました。

私は佐久間精一君と同級ですが他の同級生も皆健在でおられることを知り 昔を思い出しながら懐かしさを覚えております。また會報を見て漸次 村松中学から村松高校へと移行して行く様子が身近かに感じられて 時代の流れとはいえ老年を実感しています。

本年も益々盛会であることを お祈りしております。

松高同窓会新潟支部長 佐野 宏（中20）

◎ 會報拝受 いつも感謝の念に堪えず 厚く御礼。
歳をとると気が先立つが体がついて行かない 体調を考えて健筆を祈る

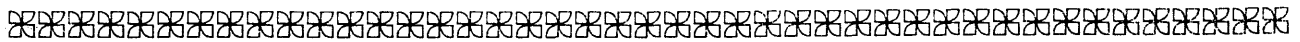
亀田町 大江 雅敏（中27）

◎ 赤山会に久しぶりに出席させて戴き諸賢兄の相も変らぬ軒昂ぶりには嬉しき限りでした。就中、同級の大橋信夫氏とは昭和十四年以來の再会（氏は四年終了で旧制新潟高校に合格）で感激も一入でした。
戦中戦後の激動期を乗り切って四人（大橋 和泉 武藤 小生）揃ってカメラにおさまるこの幸、戦陣に散った多くの友を想い 万感胸に満つるものがありました。

学窓を懐かしみつつ語り合う
友の笑顔は臥竜に還る

福原 平八郎（中26）





お便りの中から

旧友の死に寄せて

旧中27回生から佐伯支部長へ

◎ 会報、写真ありがたく頂戴、感謝。

昨年は 中野 ことしは 田中。生者必滅 あしたに紅顔、夕べに白骨、とはいうものの一方 煩惱無辺のわが身、その期に及んで どんな往生をするか 時々思ったりしている。 ご自愛を祈る。

新潟市 五十嵐 喜作

◎ いつも友を想う貴兄の暖かい心遣い 更めて敬意を表します。貴兄も言っておられる如く 田中君の葬儀という悲しむべき日ではありましたが 遠来の友を迎えての同期生の汽車待ちのほんの僅かの時間に、お互い齒に衣を着せめ談笑の時間を持ち得ましたことは これまたこれからの人生の楽しい一時でありました。これから何年生きられるか考えても詮ない事で貴兄の如く只今の一日一日を誠実に、大事にして生きる事が大切なのではと近頃思うようになりました。

五泉市 二平 一男

◎ 写真ありがとう みんな 田中君の分まで頂いたのか、実物より若く元気に撮れています。貴兄もお元気で何よりです ボランティアである同窓会の仕事を一生懸命にやっていることが若さと元気の源になっていると思います。同年代の友人の訃報を聞く回数が昨年あたりから増えたように思えます。健康に注意してご活躍を。

新潟市 北見 俊夫

◎ 安勝寺での 故田中君のご葬儀に京浜から一人、代表で参列され また早速に写真まで添えて報告ください今に変わらぬ友情とお手際の鮮やかさに 改めて感服し 感謝しています。お立て替え願ったお香典を同封致しました。有り難うございました。今年の東京同窓会を楽しみにしております。

横浜市 西山 莊平

◎ 先般は 田中住職のため遠路お出いただき その節臨時同級会ということで いろいろと有り難うございました。友 遠方より来る、また楽しからずやです。

なお「臥龍が丘は緑なり」を何時も送付いただき有りがとうございます。お役に立たないと思いますが 私の気持を受納いただければ幸甚に思います。

新津市 石川 熙

(※5千円ご送金ありがとうございました支部へ入金)

◎ 東京支部会報ご恵送賜り深謝します。

中野氏の死去の報を見てショックを受ける。

「俺は 南海の死に損ない、おまえは ビルマの死に損ない、これからは 人生の儲けだ、もう少し頑張ろうや」と言っていたのに実に残念なり。

また 田中氏の逝去も誠に残念 謹んで冥福を祈る。

東京支部のご発展を祈り寸志を送った。ご活用をの程を。

新津市 加藤 勝英

(※1万円ご送金ありがとうございました支部へ入金)

◎ 写真や会報のお礼遅くなり失礼した。本当に有難う田中兄の葬儀にお出でいただき 貴兄の心の深さに、更に深く感謝する次第です。

五泉市 竹谷 十三五

◎ 田中君が 逝くのには まだ早すぎたようだ。謹んでご冥福を祈る。お立て替えのお香典を同封したお互いに元気でいよう。

国立市 吉田 公男

■ 五泉市吉沢 安勝寺住職 田中正紹君(中27)とは村松中学入学以来の親しい間柄で また奥様は鹿瀬村役場にお勤めになっておられたこともあり 長いおつき合いをさせて頂きました。昨年4月選挙応援のため津川へ行く時 磐越西線が岩石崩落事故で不通になり開通待ちの間 田中家へお邪魔し ご馳走になりました。3時間近くも 昔話や人生観などに花を咲かせたのですが 今思うと何だか遺言めいた話も出たようです。

10月の同級会でも元気が無かったようで酒もあまり飲んでおりませんでした。支部長を勤める私を 何時も励まし 適切なアドバイスをしてくれた田中君を今失ったことは誠に残念でなりません。

本年1月26日すい臓ガンのため逝去、2月17日に本葬が行われ 多くの同期がご焼香に参列されました。上記のお便りは彼を知る皆さんに是非ご紹介したいものと思い敢えて貴重な頁を割いて掲載していただきました

田中君のご冥福を祈るとともに 各位に厚く感謝申し上げます。 佐伯 益一 合掌



(昭和19年1月6日 五泉の文福にて兵隊前の最後の正月と裏面に書いてある この内7人が亡くなった)

会報のあゆみ (1～20号…表紙)

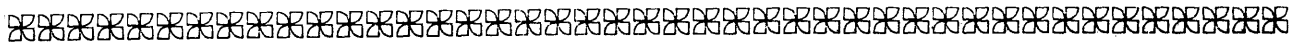
東京支部会報「臥龍が丘は緑なり」は昭和62年 2月、佐伯支部長はじめ諸先輩のご鞭撻で創刊号を発行以来、あしかけ10年目の平成 8年新春号を以て20号に達しました。創刊号で「会報を年何回出せるか分からぬが、とにかく 1回や 2回きりでは終わらせたくない」との支部長の決意に共感を覚え、同窓各位並びに幹事諸氏のご支援ご協力をいただき10年間発行を続けられましたこと、心から御礼申し上げます。

会報づくりで最も難しかったことは「表紙」の選定でした。特に支部大会号は表紙を見ながら初対面の人同士が会話出来るものを選びました。通巻20号を祝って表紙(1～20)をミニ写真にまとめてみました。

30号～31号発行時点で21世紀を迎えますが、50号をめざしております。会員の皆様から写真、寄稿、情報、お便りなど、事務局までお寄せいただければ幸甚です。



創刊号	昭和62. 6. 27	校舎赤レンガ門柱(写真)	校門は何を語る、今村松高校では…
NO 2	〃 62. 11. 1	新校舎全景(航空写真)	臥龍が丘の先輩たち、故郷忘れがたく候
NO 3	〃 63. 2. 1	龍の絵(浅草観音にて写真)	戦争の思いで、奮いて立つべし村松高校
NO 4	〃 63. 6. 11	旧村松高等女学校(写真)	赤山会のこと、蒲原鉄道の軌道(1)
NO 5	〃 63. 秋期号	蒲原鉄道五泉駅ホーム(写真)	小泉先生と浮田先生、木俣牧師の思い出
NO 6	平成 1. 新春号	郷土の霊山…白山…(絵)	古希になるまで、軍の思い出
NO 7	〃 1. 支部大会号	慈光寺山門(絵)	会員意識調査結果
NO 8	〃 2. 新春号	校門より正面玄関(絵)	蒲原鉄道の軌道(5)、今村大将回想録(1)



N0 9	平成 2. 支部大会号	村松高校周辺地図（地形図）	蒲原鉄道の軌道（最終会）
N010	〃 3. 新春号	蒲原鉄道と白山連峰（写真）	村松の露店市・輝け村松高校
N011	〃 3. 支部大会号	昭和16年秋・旧校舎全景（写真）	一枚の赤紙サメの刺身、英語の勉強
N012	〃 4. 新春号	創立80周年記念・校門（写真）	母校80周年記念、大空に散った同窓たち
N013	〃 4. 支部大会号	旧制村松中学校旗（写真）	咲花の戦跡碑、還暦元年
N014	〃 5. 新春号	蒲原鉄道村松駅構内（写真）	旧校歌と軍歌と一高寮歌
N015	〃 5. 支部大会号	村松公園の桜（写真）	松城の二旧友を偲んで
N016	〃 6. 新春号	忠犬タマ公像（写真）	中国舟山島への偵察



N017	平成 6. 支部大会号	住吉神社の高砂人形（写真）	日の丸雑感、ピナツボ山で戦死した…
N018	〃 7. 新春号	磐越西線を邁進するSL（写真）	チャンチャコババさま、45年ぶりに村松…
N019	〃 7. 支部大会号	田植之風景（写真）	村松聯隊の足跡、大空に散った同窓たち
N020	〃 8. 新春号	堀 直奇公の銅像（写真）	大空に散った同窓たち、生欲の話



寄稿



いちり

一里のグランドピアノ

斉藤 朝之（中28）

手もとをのぞき込むような聴衆の視線を身を感じながらグランドピアノの前に腰掛け、左右の指で鍵盤を重みをつけて押す。最初の序奏を強く、次に弱くそして粘り気をもたせて、ときには白鳥が空から舞い降りるような情景を心に描きながら思いを込めて弾いてゆく。

4分間を無事に暗譜で弾き終えた。ホッと胸をなで下す。平成7年2月下旬、前橋市にある生涯学習センターの多目的ホールで開催された「大人(20才以上)のピアノ発表会」で、ショパンの夜想曲(ノクターン)第20番を弾いた時の模様である。続いて同年5月、高崎市内のシュエルトサロンという小さな音楽ホールで、世界の名器スタインウェイで夜想曲第5番を、さらに12月にも同第19番を弾いた。

ピアノを下手ながら自己流で弾くこと35年間、さっぱり上達しないので、平成6年5月から女性のピアノ教師に正しい弾き方の教えを受けている。

そもそもピアノを弾けることを熱望した動機は、旧村松中学の講堂のグランドピアノを見てからである。

昭和13年4月、村松中学校の入学式を終え帰宅した私が母に「講堂にグランドピアノがあったよ」と言ったら、「あのグランドピアノは弾くと、とても大きな良い音がして、何でも一里四方に鳴り響くそうだ」と話してくれた。この一里のグランドピアノはその後、私の脳裏に深く刻まれることになる。

村松中学では二年生まで音楽の授業があり、昭和11年3月に五泉小学校から嘱託新任の関根一男先生が、そのピアノを弾き、我々は音楽を教わった。先生が黒板に向かって何か書いている時、一部の不熱心な生徒たちが声高に無駄話を始めた。すると先生は振り向きざまその声のする方へ黒板拭きをなげつけた愉快的思い出もある。

それから数年後、昭和19年6月19日、連合艦隊司令部の「あ号」作戦発令により、私たちはマレー半島ペナン基地から「零戦」15機でマリアナ沖航空戦に参加のため4千キロも遠く離れたバラオ諸島のアイライ基地へ向かうことになった。当日はシンガポールに泊り、翌20日にボルネオ島西北部、ブルネイ湾の湾口に所在するラブアン島の陸軍飛行場に着陸した。陸軍将校の案内で私たちは飛行場から3キロほど離れた兵站宿舎に泊まることになった。宿舎はジャングルの中にあり、モダンな洋館であった。

この宿舎の中に音楽ホールがあり、グランドピアノが置いてあった。松中講堂のグランドピアノと同じものを見て、私は駆け寄り、すぐピアノの蓋を開いた。

右手人差し指で鍵盤を押してみた。とても澄んだ良い音に楽しくなってきた。

しばらくすると、二人の陸軍軍属がこのホールに入ってきた。私は椅子から立ち上がり目礼すると、その年輩の二人は私に一礼して、一人が椅子に腰掛け、譜面台に楽譜を広げ、すぐに弾き始めた。右手と左手が鍵盤の上を滑るように動く、そして玉をころがすような輝かしい音がホールいっぱいに広がった。私はびっくり仰天、ただ聴きほれるばかりであった。

生まれて初めて聴くすばらしいピアノ独奏、他の一人は楽譜めくりをしている。

このピアノソロは、戦時中の強烈な思い出である。私もいつかピアノを習いたいと願望したものである。後年、追想してみると、あの流れるような旋律は、モーツァルトのピアノソナタであったと確信している。当時、ボルネオ島西部は英領であったから、飛行場は英空軍の航空基地で、その洋館は空軍将校たちの宿舎であった。

グランドピアノは当然、イギリス本国から運んできたものだ。彼等は夫人たちも連れてきて、その広いホールでピアノを弾きながらダンスなどを楽しんでいたのであろう。ラブアン島は昭和20年6月下旬、オーストラリア軍の猛攻撃を受け、守備隊の独立歩兵第371大隊の将兵五百名が戦死し、日本軍は全滅した。あの軍属のピアニストも、おそらく戦死したであろう。

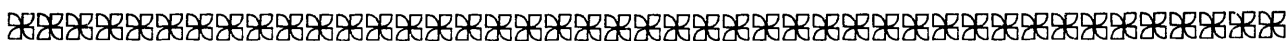
「人間は、右手を5分動かすと左の脳が、左手を5分動かすと右の脳がよく働くようになる。そこが正常に働いていれば健康でいられる。精神面さえしっかりしていれば、ピアニストは95歳まで十分現役で演奏出来る。尊敬するピアニスト、ホルショフスキーさんは95歳で初来日しているのです」と著名なピアニスト宮沢明子さんはある健保組合の機関紙に述べられている。

たしかに、世界的に名高いピアニストのルビンシュタインやケンプは95歳まで生きた。この記事を読み、私は身体を健康に保つていけば、後10年間ピアノを弾き続け、80歳までは何とか生きてゆけそうだ、と気力が湧いてきた。

ここで私は会報20号に掲載された佐伯支部長の「生欲のお話」を思い出した。

「グランドピアノでショパンの夜想曲を連続演奏してみたい」これが私の夢である。

ショパンの夜想曲は全21曲あり、この中から特にショパン独特の情緒と夢幻的なムードを秘めている8曲を選び、指導を受けている。既に発表会で弾いた曲を含め、仕上がったものは1、5、14、15、19、20番の6曲である。次の目標は、夜想曲の中で最も魅惑的で、



宝石を散りばめたような装飾音、甘美さは たとえようもないが 演奏するには完全な技量を必要とすると言われた ダッポーニイ伯爵夫人に献呈された第8番。そして第2番。第2番は原曲が有名すぎて通俗的なので代わりに カーメン キャバレロが編曲し 映画「愛情物語」の主題曲として有名になった トウ ラブ アゲイン (愛よ再び) の方を弾く。この2曲は 私のようなアマチュアでは 難かし過ぎて なかなか弾きこなせない。

それでも 本年中に暗譜だけはしておこうと意気込んでいる。そうすると 8曲の夜想曲をすべて暗譜で連続演奏できることになる。

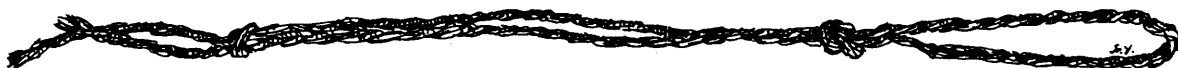
このほかに、既に覚えているショパンのプレリュード 6番、エチュード19番、ピアノ協奏曲2番、(2楽章のみ)を加え、更に ベートーベンの「月光の曲」(1楽

章のみ) ドビュッシーの「月の光」などを加えると、クラシック曲のレパートリーは16曲になる。

ポピュラー曲は、ミステイ、愚かなり我が心、枯葉、ひまわり、など レパートリーは10曲と決めている。しかし、夜想曲の猛レッスンで ポピュラー曲は 来年末ですべて棚上げである。

昭和58年 親会社を退職する頃 余生はピアノ人生と考へ、それまでのアップライト型のものをヤマハのグランドピアノに取り換えたほどの凝り性である。

平成2年に、子会社を退職してからは“毎日が日曜日”となった。それ以来 松中講堂の「一里のグランドピアノ」を思い起こしながら 相変わらず下手な ピアノレッスンに明け暮れているこのごろである。



寄稿

嗚呼栄光の松中箏球部 (バスケットボール)

山口 三郎 (旧中19回卒)

これは旧制村松中学が創立なお日の浅い昭和の戦後にかけて、その名声を保っていた頃の記録の中からお伝えするもので、特に箏球部の活躍をとりあげてみました。

部は大正15年、大先輩の川瀬五郎氏(会報17号に同氏への思い出が亀嶋氏の寄稿文で掲載されている)の発起で同好会として発足し更に翌年、三条から転入の渡辺文男氏を中心となって部を育成、その年には早くも神宮予選で強豪の三条中学を破るなど、目覚ましいスタートをきったものです。

以後、箏球王国と称えられた新潟県内にあって新潟師範、新潟商業、長岡商業、三条中学などの強豪に伍して選抜され、昭和 5年に初めて全国大会に出場しました。続いて昭和 8年には 5回戦まで進み旭川中学に敗れはしたが、目覚ましい成績をあげました。

また昭和11年の中部大会にも出場し惜敗はしましたが村松中学の実力と人気は着実に高まり、その間多くの名手を排出しました。いま往時を振り返って 1、2 代表的な方を列挙しますと、さきの渡辺(文)氏は名古屋高商に進学して大活躍され更に関西OBとして、自由連投で 100本のうち98本をきめて正に驚異的大記録をたてられました。

昭和 6年の皆川芳雄氏は海兵後駆逐艦「桃」の艦長としてフィリピン西方海域で作戦従事中31才で戦死されましたが、同期で現存の小田 哉氏などと黄金時代を築きあげられました。また昭和 7年には早稲田専門部へ進学して名フォワードで活躍した松田信平氏や五泉の歌川医師、そして東京支部の市川薫平氏らは県選手権で決勝戦に進出するなど、皆さん文武両道で立派なものでした。

いま東京支部の中にあってささやかなOB会の集まりを年 2〜 3回催しますが次のメンバーが参加しております。渡辺文男(12回)、小田 哉(16回)、市川薫平(17回)、山口三郎(19回)、亀嶋 謙(22回)、柴澤啓一(23回)、松田長四郎(24回)、武藤三郎(26回)等何れも健在で和気あいあいのチームワークであることを申し添えて老OBの口伝をおわります。



私の昔話

木村 時也（高4回）

故・今井政夫先生（旧中25回）が松高の先生だった頃「おいっ木村、教育大でバスケットをやってみないか」の一言で、身の程しらずその気になって東京に出てまいりました。

昭和27年春…、新津駅から夜行列車に乗り翌朝、山手線の大塚駅に下車した時の一抹の不安と解放感を今でも覚えております。

下宿先は文京区茗荷谷の堀 哲二氏（旧中24回）宅、兄の友人ということで心よく一室を私のために空けて下さいました御好意が、私の東京での生活の原点であり出発となりました。

朝から夕方まで授業を受けバスケットの練習は夜6時からです。当時の監督は、後に東京オリンピックで監督をされた吉井四郎氏（新潟商…高師）で、練習に熱が入ってくると「そのパスはダメダッテバー」「ヤメレッテバー」新潟弁丸出しの罵声がとんできます。注意された選手は神妙な顔つきですが、周りではクスクス笑いを堪えています。全国各地から集まってきた選手の中に入りいささか弱気になっていた私は、その新潟弁でリラックス出来た気分になり、何か味方を得たような感じすらもったものです。

上級生になって吉井氏のお宅に遊びに行くようになり奥様の親戚が村松の黒パン屋さんと聞き益々親近感を持つようになりました。しかし残念ながら平成4年他界されました。氏の著書は10数冊を数えますが、その中に「私がバスケットを最初に教えられたのは昭和3年新潟市内の小学校4年生の時であった…中略…小学校でさえ県下の大会が、新潟市、村松町、三条市、長岡市などですでに開催されており………」という数行を書き添えておきます。

昭和31年、学習院中高等科に勤務が決まり教師のはしくれとなりました。ある日、事務長が私の履歴書を見て知ったのか「先生は新潟の村松出身ですね」というので「ハイそうですが」と答えると、「いやぁ懐かしいですね、私は村松の連隊におりまして、将校だったんですよ〇〇ちゃんという芸者さんはまだいますかね」、いきなり芸者さんの話に私がまごついてると「木村という料理

屋の細長い庭で、軍刀を持って写真を撮ったのを覚えていますよ」私は愕然とし暫くして「あのお実は、私はその木村です」事務長もびっくり。

学校での直属の上司は、外山賢四郎という先生で、そのお兄さんは村松高で何年か体育の先生をしておられた故・外山三郎先生であることを後日知りました。

私が現在の雙葉学園に移ってから暫くして、賢四郎先生も急逝されました。代わりの先生が見つからず私も急拠お手伝いすることになりましたが、私の受持った高等科2年に同級生の、斎藤（茂野）英子さん（高4回）のお嬢さん（現在2人のお子さんのママ）が在学中で、ここでまたびっくり。容姿、仕草が母親の英子さんにそっくりなので、ちょっと恥ずかしいような、楽しいような遙か遠い昔にもどった不思議な時間を味わいました。

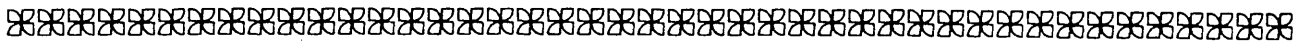
昭和30年代より現在もまだ、バスケットボール連盟や協会との関わりの中で、多くの人との出会いがありますが、元国際審判員、晨 匡一郎氏（明大OB）との話。

新宿で飲みながら話題は出身高のことになりました。「木村は新潟のどこだっけ」「村松高校というところですが…」「えっ、俺行ったことあるよ。何とかという駅で降り小さな電車で山の中や田圃をガタゴト行くところだろ、長かったよ、疲れたよ」

彼は当時“モルテン”というボール会社の東京支店長で、村松までボールの売り込みに行ったのでした。行先は、松田運動具店…松田信一氏（旧中22回）…だったようです。「今度、仕事抜きで飲みに行きましょう、新幹線だからすぐですよ」………閑話休題………

いつかの、東京支部大会のあと同級生と、斎藤慶吾氏（高2回）と二次会に行き斎藤さんが釣りを趣味として話題となりました。「ところで木村君、ハヤシさん知っている？」突然だったので思いあぐねていると「バスケット界で顔らしいよ」「ああ、晨（ハヤシ）さんのこと、長い付き合いですよ」何と釣り友達だったのです。以来、晨さんにお会いすると、いつも斎藤さんのことや釣りの自慢話を聞かされています。

千代田区立今川中学の浜本校長より電話があり、私立学校の様子をいろいろ知りたいので会ってくれないか、



寄稿

山頭火に寄せて

深見 洋子（高7回）

母が病気になつて以来、私と妹は毎月交替で村松へ行く事になつた。そんな折、ふと手にした“漂泊の俳人——種田山頭火”の句に、自然への優しく暖かい感性を見て、まるで何かの力が働いたかの様に完全にはまり込んでしまった。私にも多分に放浪癖があるらしい。

母が再入院したのは6月末日だつた。その日は村松：新潟間を二往復し、疲れ果てて又村松へ戻つた。

つかれた脚へとんぼとまつた

新潟へ通う日が続いて気が付くと、山々はいつしか深い緑の重なりになつていた。

分け入つても分け入つても青い山
炎天のはてもなく蟻の行列

東京：新潟：村松を往つたり来たりの日々が続いた。

村松では、同期の佐藤静子さんの家が、私の常宿となつてしまつた。母の病状は思はしくなく「帰りたい」と言う声が重く押し掛かり、とても一人で実家に泊まる気分になれぬ私は彼女の言葉に甘え、気にしながらも迷惑を掛け続けた。身体よりも、心理的に疲れ果てて辿り着くと、彼女は“越後杜氏”と共に待つて居て、杯を交わしながら私も後から始めた中国語や、中国文化のあれこれを夢中になつて語り、疲れを癒すと共に知的満足をも与えてくれた。又、彼女に触発されて私も小説を原文で読む様になつた。

ほうたるこいこいふるさとにきた
お寺の竹の子竹になつた

花好きの村松人らしく、彼女の庭も咲き続けていた。

何が何やらみんな咲いてある
花いばら、ここの土とならうよ



季節は慌ただしく移つて行く。何も考えられなくなつて自分の身に気付いた。

お月さまがお地藏さまにお寒くなりました
なんぼう考へてもおんなじことの落葉ふみあるく

会えば「いつ帰れるかしら」としか言わない母。眠れない夜が続いた。

ほつかり覚えてまうへの月を感じてゐる
悔いるところに日が照り小鳥来て啼くか

十二月、一時帰宅を許された母を村松へ連れ帰り、妹と私は村松に居続けた。母はほつとしたのか驚く程の食欲で、私達を啜然とさせた。丁度季節だつたので、夜には妹と二人、地酒の“にこり酒”を楽しんだ。

酔ざめの風のかなしく吹きぬける
一羽来て啼かない鳥である

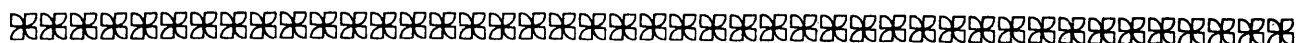
気にはなつたが、私達にはどうしようもなく、母を又、病院へ帰した。

家へ戻ると我家は全員パニック状態で、ばたばたと日は暮れ日は昇り、瞬間に大晦日を迎えた。そして元旦、届いたたくさんの年賀状に安らぎを覚え、一枚、又一枚と文面を読みながら久し振りに私の心は和んだ。その中からいつも添えの一言が楽しい大橋貞夫さんからの一片。

“年相応の酒の飲み方”なんてマニュアル本は、ありませんか あつても役に立つかどうか……

独り飲み居れば夜風騒がしう家をめぐれり
風がはたはた窓うつに覚えて酒恋し
酔うてこほろぎと寝ていたよ

（文中の句は 山頭火句集 より）



平成8年度「赤山会」春季例会

去る 3月17日(日)午後 1時から市ヶ谷の私学会館で春季赤山会が開催された。案内状の中に「人それぞれに生活環境は異なるが、我々には同窓であるという安心できる共通部分があり、話の弾む会合になると思うのでは非ともご出席を……」の一文があつてか当日は29名の方々が参集された。

佐久間代表幹事(20回)の司会で開会となり、先ずは物故者に黙祷を捧げたあと、亀嶋会長(22回)歓迎の言葉があり続いて佐久間氏の事務報告があつた。

今回はじめて出席された石井政吉氏(19回)、中村勤氏(20回)、斎藤新治氏(22回)が新会員として紹介された。また今回やむなく欠席された諸氏からの便りが披露され、なかには体調の良くない方もおられるようでご自愛を心からお祈りする次第である。

記念撮影後、大先輩の渡辺文男氏(12回)のお元氣なご発声で乾杯、会場は盛り上がり和氣藹々とした雰囲気の中で懇親会は進行した。

渡辺氏、愛蔵のテープ(村田文蔵の佐渡おけさ)が会場一杯に広がると酒量の差はあれ気分は高揚し、急速カラオケの出番となった。続出するリクエストに適確に対応するのは、エンジニアの五十嵐一郎氏(30回)。聴衆を唸らせる熟達者も何人かおり賞賛の声があがつた。スピーチでは佐伯東京支部長(27回)から来る 6月 1日の東京支部大会への誘いもあった。懐かしい旧校歌を高らかに斉唱して午後 4時解散となったが、秋期赤山会は11月23日(祭日)に予約されている。

(武藤三郎 26回)



転居いたしました

堀 哲二氏 (中24回)
〒345 埼玉県南埼玉郡宮代町東1023-3
☎ 0480-33-2235

青木 敏和氏 (高18回)
〒419-01 静岡県田方郡函南町仁田98-18
℡サ-ジュAON0 206号 ☎ 0559-79-0983

逝去されました

田中 正紹氏 (中27回)
平成 8 年 1 月 26 日 逝去

相田 英三郎氏 (中 4 回)
平成 8 年 3 月 2 日 逝去

編集後記

商法の改正により最低資本金が、有限会社300万円以上、株式会社1000万円以上になり、今年3月末日が期限であった。法務局に数回足を運んで余りの混みように驚いたものである。全国で何十万社もの手続が行われた訳で、その臨時収入は莫大なものとなる。例えば解散登記は3月末日迄1万円、4月1日以降は3万9千円、設立登記には定款の認証を含めて約15万円かかる。こんなに高い手数料を取って税收不足だというのは国の無為無策以外あり得ない。全く腹の立つ話である。

最近高3になったばかりの娘が遅まきの反抗期に入った。ご飯や肉は食べられない、魚や野菜でないと駄目なの、受験の為に山程あちらこちらの塾案内を取り寄せて悩んで居る。親のアドバイスは余り効き目がないし聞く耳も持たない。

年頃の子を持つ親として 自我に目覚める子を眺め 子の独立心と夢託す親心 相反発せしは世のさだめ せめて正道をと思いきや それもままならぬかに見えし されどハシカのようなもの そそいだ愛が本物ならば ただ、子の運命に託すばかりや

(広報部・大橋)

平成8年 6月 第21号

発行人：新潟県立村松高等学校同窓会東京支部 広報部

事務局：〒113 東京都文京区本郷3-39-12 (有)ツルマキ 内

TEL 03-3818-6448 FAX 03-3818-6270

郵便振替 00160-9-26339

校 歌

旧県立村松中学校校歌

1. 塵の巷を遠ざけて
雲たちまよう白山の
麓に立てる松の群
見よ凌霄の気を含む
2. 緑色濃き木陰には
夏も尽せぬ泉あり
湧きて流れて末遂に
汪洋として海に入る
3. 落葉をくぐる流れにも
岩石砕く力あり
清きは水の姿にて
強きは誰が心ぞや
4. 万緑の気地に潜み
風雪野山に荒るる時
色さえ変えぬ常磐木の
高きは誰が操ぞや
5. それ英雄も人傑も
人の子吾等がたぐいなり
嗚呼松城の健男児
奮いて立つべし諸共に
嗚呼松城の健男子
勇みて立つべし諸共に

旧村松高等女学校校歌

1. 愛宕の山のむら松の
みどりの色の常盤なる
操を胸に日の本の
をみな徳を磨かばや
2. 心は身はも真夏なほ
日に輝ける白山の
雲にもまさる清さもて
正しき道を進まばや
3. 其の名も高きこの里の
桜の花のうらうらと
のぼる朝日に匂うごと
気高き姿保たばや

現 校 歌

相馬御風 作詞
中山晋平 作曲

1. 普く照らす天つ日の
光を浴びて年々に
伸びてしまめ若松の
ときわの志操いや堅く
学徒われらの在るところ
明朗の和気みなぎれり
2. 見よ質実に清純に
進取の生氣湧き溢れ
文化の花の咲くところ
希望は常に輝ける
道に我らを進ましむ
努めなんいざもろともに

応 援 歌

(一)

1. 緑濃き臥龍ヶ丘に
轟くは我等が歓呼
若人の高なる血潮
たたえつつ春の日めぐる
2. いざ叫べ若人の誇り
わななける力の腕
見よや君歓喜の胸に
輝くは永久の勝利

(二)

1. 臥龍原頭幾屋霜
切磋琢磨の功を経て
花くれないの香に匂う
誉れは高き松城の
健児が胸に血やおどる
2. 我等がえらぶますらおの
誉れは海の湧くがごと
望みは雲のゆくがごと
月の桂をなゆずりそ
栄えある名をぞとこしえに

(三)

1. 松城健児六百が
祖国の為に剛健の
大図をここに定めんと
送りいせし我が勇士
覇権をゆずることなかれ
我等六百ここにあり
2. 臥龍原頭精気あり
義憤に満ちし丈夫が
驕奢の潮せきとめて
逸惰の眠り打ち破り
高うつ胸の雄叫びに
進めとなるを如何にせん
3. 今壮快の晴れ戦
見よ雄叫びの只中に
我等が望み一筋に
肩にぞかかる勇戦士
覇権をゆずることなかれ
我等六百ここにあり



三

こころざしを はたして
いつの日にか 帰らん
山はあおき ふるさと
水は清き ふるさと

二

いかにいます 父は母
つつがなしや 友がき
雨に風に つけても
思いいずる ふるさと

一

うさぎ追いし かの山
小ぶなつりし かの川
夢はいまも めぐりて
忘れがたき ふるさと

ふるさと

(文部省唱歌)

作詞 高野辰之
作曲 岡野貞一